

# 旭陵関西

発行人  
旭陵同窓会関西支部長  
**甲斐敏晴**  
高槻市眞上町3丁目13の1  
医療法人祐生会  
みどりヶ丘病院内  
印刷所 (南高岡芳清堂)  
TEL. 0729-96-0083

## 旭陵同窓会関西支部総会を迎えて



旭陵同窓会関西支部長  
**甲斐敏晴**

今回、空谷前支部長の後継として、支部長の大役をおおせつかりました。前支部長は、旭陵同窓会関西支部の基礎を築き、五年に亘って固めてこられました。このたび、若返りとの理由で引退され、私が支部長の役を引き継いだのですが、この五年間全会員の努力で、ここまで培った会を、更に発展しなければと思ひますと、その責任の重大さに身が引き締まる思いが致します。

同窓会活動の基本は、年一回の総会の開催と「旭陵関西」の発行です。総会を如何に盛會裡に持つていくか、そのためには出来るだけ多くの会員の出席が望まれる所です。そこで、魅力ある総会にする工夫が必要で、その一つとして、文化講演会を毎年行っています。今迄に作家古川薫氏、土井ヶ濱遺跡人類学ミュージアム館長松下孝幸氏、作家船戸与一氏に講演頂き深い感銘を受けました。本年は、琵琶奏者山内とも子氏をお招きしています。

これは、同窓会の中では当支部のみが行っているものです。会員からも大い

に好評を得ておりうれしく思っています。「福引」も結構よいものがあり楽しみです。

現在、若い世代の同窓生において、同窓会離れの傾向が見られます。当然のことながら、この世代の方々の総会出席なくしては、同窓会の発展は望めません。若い世代の同窓会員の発掘、そして一人でも多くの方に参加して頂きたいと思ひますので、どうか皆様の協力を是非ともお願い致します。

「旭陵関西」の新聞発行は、是非とも続けて行きたいと思ひます。発行にはかなりの費用がかかりますが、又原稿集め、校正の手間は本当に大変ではありますが、新聞による会員相互の情報交換意思の伝達・更に故郷下関の話題は文字という形で、確実に会員同士を結びつける事が出来ます。

又、年一回の総会の会合だけでなく、グループの結成やクラブ活動を行うことによつて出来るだけ会員の接点を持つていきたいと思います。

同窓会は、各世代の会員の集まりであり参加も自由で拘束されないものです。それだけに、常に各会員の意見を聞き入れながら、運営して行きたいと思ひます。同じ高校出身者が、遠く離れた関西の地で懐かしさと、若きよき時代の思い出のつながりを持つて行くと共に、若い後輩達には先輩の経験や情報が役立つてほしいものです。

会員各位の切なる協力をお願いいたします。



旭陵同窓会会長  
**小田保**

記念すべき二〇〇〇年を迎え、旭陵同窓会関西支部が益々発展されております事を心よりお慶び申し上げます。昨年は母校創立八十周年を迎え、会員の皆様、各支部の皆様方のご協力、ご協賛を頂き有難うございました。五月には山口大学長 広中平祐先生に「学問のよろこび」と云う記念講演をして頂きました。八月には「天下第一関探訪ツアー」で中国山東省の万里の長城見学、「天下第一関」の拓本取り、楽しい記念旅行が出来ました。十月には下関市民会館で「八十周年記念演奏会」が開催され、下関西高吹奏楽部の他、下関市民オーケストラ、山口県警音楽隊等ご出演頂き、市民の皆様方もお招きして音楽を楽しみました。

お蔭様で三つの記念事業共、成功裏に終了する事が出来ました。心からお礼申し上げます。

さて、近年、政治・経済・社会とも急速な勢いで変化し、同窓会に対する価値観も異なる若い方々もふえて心配する先輩も少なくありません。

したがって私共の第一の仕事は旭陵同窓会の活性化にあると考えました。そのため六月の総会で、同窓会規約の一部を改正し、常任委員の活動しやすい様に致しました。次に、本会総会の開催日を、日曜から土曜とし、遠方から参加しやすい様にしました。近年、女性会員が増加しております。女性の積極的参加が同窓会活性化の鍵であると思ひます。

最後に、旭陵関西支部の益々のご発展を祈念致します。



下関西高校校長  
**小川達朗**

旭陵同窓会関西支部の皆様には、本年度総会が盛大に挙行されますことを心からお祝い申し上げます。昨年は創立八十周年を迎え、母校の体育館で同窓会総会が盛大に行われ、同窓生は勿論、旧・現教職員も久しぶりの再会などで楽しく過ごさせて戴きました。

久遠に蒼く潮湧きて  
瀬戸は臥竜の姿かな・・・  
たましきの 學びの庭に・・・  
風師山さ霧晴れ行き

折りにふれ、関中時代、西高時代の校歌などを口吟み、青春を過ごした往時に想いを寄せられた方々も多いことかと存じます。

本校には、先輩の皆様方が築かれた「自主・自律の精神」に支えられた自由な校風と、「天下第一関」を校是とする貴重な伝統があります。そしてまた特筆すべきは、最近の同窓会のためぎましい発展であります。名簿の充実、下関の本部はもとより東京や関西をはじめ各地の支部活動等の発展と充実期を迎えたことでもあります。そして、二

# 高関

万名に及ぶ有為な人材が広く国内外の各分野において、指導的な立場で御活躍されていることは、誠に御同慶に耐えませんが、

ところで、今春も二百八十名が新しく同窓会の仲間入りを行いました。京阪神地区には今年も伝統校を中心に実数で五十余名が志を抱いて入学しております。今後とも何かとお世話になることと思ひます。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

学校の現況は、全日制普通科各学年六学級、理科科同一学級の七学級計八三三名、このうち女子生徒が三百七名で約三十七%になりました。定時制は各学年一学級計七十七名で、例年になく在籍者が多くなっています。職員は七名の非常勤講師を含めて総勢七十七名であり、このうち同窓の在籍教員は十四名にもなり、生徒に対して本校の伝統精神を涵養し、また発揚する上で誠に頼もしい存在だと思っております。

さて、ここ数年社会の変化とともに教育の世界も大きく変化し、国民の関心も今までになく強くなりつつあります。教育に対する基本的な姿勢とともに、制度面での改革、変化も急速に進んでいます。

二〇〇二年には、完全学校週五日制が実現しますが、高校ではこれとセットで学習指導要領も改訂され、選択学習の幅の拡大、「情報」や「総合的な学習の時間」の創設など、社会の変化に対応した改善が図られています。本県でも、昨年度から「県立高校活性化プラン策定事業」が始まり、県立の普通科高校ごとに「地域協議会」を設置し、同窓会やPTAの役員など地域の方々にも委員となつて戴き、特色づくりの方向について協議しています。

終わりに、旭陵同窓会関西支部の今後のますますの発展と、皆様の御健勝・御活躍をお祈り申し上げ、御挨拶といたします。

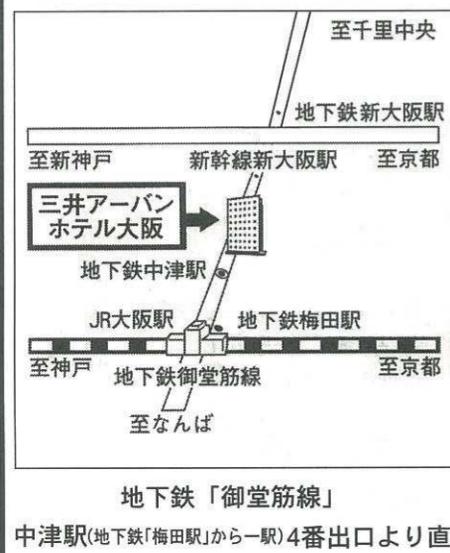
## 山内とも子氏の紹介

仙台出身。仙台で〇L中、平曲(平家物語を琵琶で語る)の名人、館山甲午氏(平元 九六才死去)に。〇十年間師事。昨年迄五年間、平家のロマンを求めて京都に住む。建礼門院ゆかりの寺を巡り修業。昨年、壇之浦で潮流の激しさに驚き、赤間宮で平家塚に参拝し、平家滅亡に胸を痛めた。各地で平曲演奏活動中、東京在住。

## 平成12年度旭陵同窓会関西支部総会案内

- 日時：平成12年9月10日(日) 10:30~15:00
- 場所：三井アーバンホテル(大阪市北区豊崎3-18-8 TEL.06-6374-1111)
- 来賓：小田同窓会長、本部役員、小川校長 他
- 会費：1万円
- 式次第：10:30~11:00 総会  
11:00~12:15 琵琶(平曲)演奏と解説  
奏者 山内とも子先生  
演奏曲：「先帝御入水」「六道」他  
12:30~15:00 懇親会 福引あり。

○同窓生をお誘い合わせの上是非ご出席下さい。  
なお、同封葉書にて出欠の連絡を8月末日までをお願いします。  
(欠席の場合も名簿整理上必ず返信をお願いします。無回答はやめましょう)



# 平成十一年度総会の状況

## 「冒険小説家の兆児 船戸与一氏をお迎えして」

当番幹事 三好勇次(46期)

平成十一年度総会は平成十一年九月十九日に三井アーバンホテル大阪にて、盛大に開催された。

空谷支部長(二十七期)の挨拶に始まり、支部担当役員からの会務、会計、監査報告がなされた。

その後、役員改選の議案が提出され、空谷氏が顧問に退き、新支部長には甲斐氏(三十一期)が就任、二十名の若返りした新体制が、満場一致で可決された。

議決後、小田同窓会長よりご祝辞を賜り、本部では同窓会を活性化するため、常任役員に女性を加えるといった新たな取組みのご紹介等があった。

続いて母校の小川校長からご祝辞を賜り、母校の近況報告を始めとして、特にこれから若い世代の積極的な参加を切望されておられること、二〇〇一年七月から阿知須町で開催予定の「山口きらら博」の事前PR等がなされた。

続いて、石原本部幹事長に対し「八〇周年同窓会記念」として、甲斐支部長からお祝い金の授与がなされた。

当日のメインイベントである特別講演は、過去二回の講演が他校ご出身の講師陣であった点を踏まえ、母校の同窓生であり、今や日本冒険小説界の頂点を極める船戸与一氏(三十九期) 本名 原田研司氏)をお招きして、「冒険と私(世界を回ってきても)」という演題で行われた。

氏と同期生の村上充昭氏から船戸氏の紹介が行われ、その中で、今回の講演は同期の山本博美氏(東京在住)と共同して出演交渉し、丸二年を掛けて、ようやく実現に至ったということが披露された。



▲船戸与一氏の講演

船戸氏は流石に世界を股にかけるライターらしく、Tシャツにベスト、チノパンにスニーカーという軽装で登場された。とりわけ我々の度肝を抜いたのはその立派な口髭よりも頭に被られたテンガロンハットであった。

その後、村上氏からバトンを受ける形で山本氏が進行役を務める。

行中の逮捕、拘禁の話、第三世界での賄賂の話等、我々が日頃、耳にすることの出来ない貴重な話を伺うことができた。

また質問では、「ペンネームの由来は?」、「力作揃いの著作の中で、特に推奨の作品は?」というものがあり、前者については、ある作品を上梓するに当たり、編集者からペンネームをどうするかという話があり、すぐに決めてくれということだったので、たまたま手元にあったスポーツ新聞の中から、適当に選んだ名前だったことが披露された(氏の著作活動当初のペンネームは「豊浦志朗」)。

後者については暫し黙考後、「蝦夷地別件」(新潮社より発刊)を挙げられた。諸氏ご一読願いたい。

近々、カンボジアの仏像遺跡の盗掘現場を歩く予定とのこと。次作は、カンボジアを舞台にした冒険小説が上梓されることになるかもしれない。乞う、ご期待。

取材活動に対するジャーナリストで真摯な姿勢、年令を感じさせないエネルギッシュな熱情をお話の端々に窺うことができ、氏ならではの講演内容であった。講演会終了後は懇親会に移り、年代を超えて和気合々の内に、交歓を図ることができた。

また、恒例の福引きが盛大に行われ、今年も、特に船戸氏のサイン入りの著作本が全員に当たるという超豪華(?)な景品がつけられた。当日の飛び入り参加者を期待して多めに準備した残余の本はオークションに掛けられ、値が上がった。下がったりで大変な盛り上がりとなった。

また、当日会場で各位にお願いしたカンパは二十万円近く集まり、支部役員の方々から後々「これで会費不足が賄える。改めてご厚志に御礼申し上げます」といった裏方でのご苦勞話も伺った。

会が大きく盛り上がる中、来年の再会と本会の一層の発展を誓い、めでたくお開きとなった。

(株クボタ)

## 「西高で学ばなかった西高生」

西村 啓(31期)



昭和二五年男女共学という時代の要請で、下関西高と下関南高が統合して下関西高となり、それぞれを北校舎、南校舎と呼んでいた。

昭和二六年、私は西高に入学、入学生徒男二五五、女二五〇名であり、南北両校舎にはほぼ半数づつ分けられた。私は南校舎となり、女子高に通学している妙な気分であった。

二年生になる時、抽選があり、半数が校舎を入れ代わった。私は「南」を引当た。三年生になる時は、間違いなく北校舎に行けるからとあきらめた。

当時、授業はそれぞれの校舎ごとに行なっており、他校舎に行くことは殆どなかった。

ただ、文化祭は南校舎で、体育祭は北校舎グラウンドで行なわれるのが恒例だった。三年生になる前、学校再編成問題が、県の主導のもとに議論されていた。

学校の要請で「共学の是非を問う投票」が、生徒会で行なわれた。結果は私達、新三年生共学賛成、一、二年生は別学賛成であった。その結果、私達が三年生になる時には校舎の入れ代えはなかった。

結局、私は三年間南校舎で学ぶことになった。これで、「西高生でありながら、西高で学んだことがない男子西高生、約六〇人の一人」になってしまった。

この様な経験は西校史上、私達だけである。この様な経験は西校史上、私達だけである。

参考までに、当時の校舎別の男女生徒数を書いておく。南校舎(一年男〇・女二八三、二年男〇・女二七二、三年男一三四・女二二六)北校舎(二年男二八八・

女〇、二年男二九一・女八、三年男二九・女二二六) 私と反対に三年間北校舎で学んだ女生徒は、西高卒であるが学籍簿は現在南高にある。

共学は私達が卒業した昭和二九年三月に終了した。

昭和五九年に西校の校舎が竣工し「旭陵」には、幾多の同窓生の過した校舎は最早なく、学窓から映しこむ旭のみ変らぬ」という詩的な文に対しても、他人事で共感を持つことが出来ない。

昭和四十一年、住友軽金属の名古屋工場に勤務していた時に三年間南校舎の安部君(三菱銀行)が来社した。突然の再会で挨拶代りの会談が満座の中で、女学校論議での披露となった。「女学校」という言葉が何度も何度も出て、気恥ずかしくなったことを思い出す。小生は相槌を打つだけで充分だった。思いは同じなのです。

昭和六〇年群馬の伊勢崎に勤務していた時、埼玉の熊谷にお住いの小林ゲタ先生をお訪ねした。「ゲタ君よ、君は行方不明になっているよ。この葉書に住所を書きなさい。」と、旭陵同窓会名簿の存在を初めて知った。

この五月、高槻に来たので「みどりヶ丘老健施設」に先生のお見舞いに伺った。「おーケー君だ」と思い出して下さった。九二才で健在でした。

下関西高の卒業生として、大学時代、社会人となり今日まで、一度も恥ずかしい思いをしたことはない。後輩の方々の活躍で、知名度は年々上がり、その果実を頂いている。

しかし未だに「一年間でも北校舎で学んでみたかった」と思うのである。

(株アルカット)

## 村上法律事務所

弁護士 村上 充昭 (39期)  
弁護士 村上 恵美子

事務所 〒530-0047 大阪市北区西天満4丁目6番19号  
北ビル2号館5階502号室  
TEL 06(6365)7005 FAX 06(6365)0819

## 医療法人祐生会

## みどりヶ丘病院

診療科目：  
内科、循環器科、消化器科、小児科、外科、脳神経外科  
整形外科、眼科、歯科、耳鼻科、リウマチ科、麻酔科  
リハビリテーション科、放射線科、人間ドッグ  
ベッド数：329床

理事長 甲斐 敏晴 (31期)

☎0726-81-5717(代)

直通☎0726-85-2296 FAX.0726-81-5796

〒569-1121高槻市真上町3丁目13番1号

「ともしび」

六川太郎 (29期)



「おや?.....」休日のひと時、古いアルバム整理の手を止める。
「ともしび 第四号」色あせたわら半紙のガリ版刷り。遠いかすかな記憶を呼び起こしながら、居間に戻る。
「あら、何か掘り出しもの?」
「うん、下関の高校の時の文集がね...」
「まあ、お茶でも入れてきますわ」
室内の足音が奥に消えるのもどかしく、頁をめくる。

巻頭に、なつかしい三谷留子先生のお名前が飛び込んで来る.....。そう.....。あの時以来手にしたことのない西高のクラス文集.....。
「六川さん、朝鮮動乱と日本経済」をテーマなんて...もう社会人みたい.....」
クラスメートのM子さんの大きな瞳がまばゆく魅つて来る.....。
庭の紫陽花が、小雨に打たれ、白くたわわに鮮やかにガラスに映える。

二年九組。北校舎のホームルーム。澄み渡った秋空の明るい日差しが窓一杯に差し込んでくる。男女共学二年目を迎え、若さに満ち溢れたクラスメートの話し声。時折り、どつとどよめく笑声が、記憶のあなたから響いて来る。

ホームルームの片隅。楽しく語り合っている恋仲のH君とS子さん。「私の女性観」。「私の男性観」執筆者の二人。スマートなH君、クラスのマスケットのS子さん、共に東京の大学に進学。その後、幸せな道を進まれたのか.....。疎遠になった今、遙かなる友への思いがつのる。

なつかしいB君とK子さんの「詩」、  
「冬の思い」「夜の神秘」「寂しさ」:  
時代を超えて、思春期の今の十代にも通ずる感動が、ひしと伝わってくる。

昭和二十五年、秋、戦後の下関は、本州最西端の玄関口として、どこか垢抜けたハイカラな街であった。  
「随筆、随想」「ホームルーム雑感」:  
そこには、半世紀前の、なつかしい十代の同じ学び舎で過ごした、クラスメートの心の思いが、彷彿と語られ、綴られ、老境の今なお、心の「灯」として語りかけてくる。思わず同窓会の名簿をくくる。いつしか雲の切れ目から差し込む夕日に、赤く染められた紫陽花が、一際、しみるように美しくせまっていた。  
(新明和エアクラフトエンジニアリング)

「西高時代に思いを馳せて」

松尾和幸 (50期)



下関を離れて、早や二八年が経とうとしています。この間、関西を拠点としてあちらこちらを飛び回っていますが、故郷で過ごした思い出、出会いが今の私の支えとなっている事を、最近、とみに思うようになって来ました。

特に、西高での三年間はそれ迄、親や先生の云う事を聞いていれば「良い子」で過ごしていられた私にとつて、考え方を要する転機となったときでした。県内でも有数の進学校と言う事で画一的な、言わば規律を重んじた学校という

イメージで入学した私は、そのギャップに大いに戸惑ったものでした。市内でも比較的自由な校風で、良く言えば「個人尊重主義」。言い換えれば、色々な人種の寄せ集め.....一人一人の個性が煌いていました。

個性と個性のぶつかり合い。一見バラバラに見える集まりでしたが(本当に普段はバラバラでした)、一端何かに向えば、途方もない力を発揮します。

恐らく目標になるものを絶えず追い求めていたのでしょうか、その良い例が「体育祭」。地区毎の狂気と言つて良い程の異様な盛り上がり。前日までの深夜に及ぶ準備作業、当日のお祭り騒ぎ、ファイアーストーム、そして終わった後の、達成感と妙な脱力感。今も強烈な思い出として焼き付いています。

先生方も良い意味での放任主義であり、自主性を尊重してくれました。修学旅行では、最終日、現地の西鹿兒島駅で解散し、後は自由の下関まで帰れと言う事。鈍行列車を乗り継ぎながら、その地方の人々と会話を弾ませたことを覚えてます。

その様な環境の中で、次第に「自分の責任」を意識するようになり、それは友達との交わりにより、更に強くなりました。部活を、成績不振を理由に、親から反対され退部せざるを得なくなり、学校生活に嫌気がさしたとき「親を言い分けるにしろ」と云つて、その後も変らぬ付き合いの中から、立ち直るきっかけを作ってくれた友達に対し、会う機会の少なくなつた今も、感謝の気持ちでいっぱいです。

このように、今になって西高時代のことに思いを馳せるのは、現在の目まぐるしい変化の中で、自分自身をしつかりと位置付ける必要性を感じ、その意味から、あの頃の体験が、今、一番大切に思えるからなのかも知れません。  
(佳化カラー)

「話半分」

村上充昭 (39期)

(一)、どんな金持ちでも、お金は常に足りないものである。足らないから、大概のことはお金で解決できるとも言える。しかし、不思議なことに、いくらお金をかけても、貧乏だけは退治することはできない。

この不景気な時代で金持ちになるにはどうしたらよいのか。物事は深く考えてはならない。考えているうちに、状況が、変つて来るからである。もたもたしているうちに、損が拡がるのである。拙くても早いのがよい。早く見切りをつければ、それだけで金持ちになれるのである。「見切り千両」は金持ちになるための特效薬とも言える。

(二)、景気が、悪い、悪いと嘆き疲れて一〇年になる。人生の八分の一をばやきで過ごしたことになる。貸した方は、貸した金額の大きさに驚き、借りた方は、返すことの無限地獄で、経済活動に対する意欲を失っている。そのため景気対策にいくら金を使つても、景気が回復することはない。経済のからくりが暴露され、物を買うことの馬鹿らしさを知つたが故に、誰も物を買わなくなった。

物を売ることは、人を騙すことである。買つておけば必ず儲かる、今買えば安く手にはいると焦らすのも騙しのテクニクである。お金を使う人の錯誤、錯覚なくしては、経済は成り立たないし、景気は回復しないのである。皆が賢くなつて、小々のことでは、騙されなくなつた。騙しの最高の手口は、「必ず儲かる」ということを何度も吹き込むことである。

儲かる王者であると信じられていた不動産を目的の敵にするところに今日の不幸の原因がある。加えて先行きの不安、この先どうなるかという不透明な状況が個人のお金を足止めしているのである。安心してお金が使える状況を作り出さねばならない。景気、不景気は、すぐれて心の問題なのである。景気対策とは多くのお金を使うことではない。お金を使う人に、必ず儲かるという錯覚を与え、安心してお金を使わせる環境を作り出すのが景気回復の妙薬なのである。

(三)、損をしたくないのは、誰しも同じ気持ちである。なにもしなければ、目減りはするが、損はしない。損のない人生が理想であれば、なにもしないことである。何かをして損が出たら、損は直ぐ人に回すこと、もつと分り易くいえば、「つけ」は直ぐ人に回すことで経済の活性化がなされていた。

しかし、つけを人に回す「からくり」が暴露されたので、損する者が、激減してしまつたのである。損のない人生は、危険はないが、面白くない。堅実は安全であるが楽しくない。楽しいことは、ほとんどの場合、身体に悪く、お金もかかるのである。

(四)、世の中は、本当かどうか分からないことが多い。本当かどうか分からないから、世の中はうまく行つていとも言える。本当のことを知つたら、常に争いが絶えないことになる。人の本当の心は、知らない方がよい。世の中には、知つてはいけないこと、知らない方がよいこと、知つたら地獄の苦しみを味わうことなど、危ないことがいっぱいある。

何でも、ある程度いい加減にして話半分で済ますのが安全である。本稿も話半分ということでおしまい。  
(弁護士)

阿武山こどもクリニック

院長 岡本良三 (46期)

〒569-1041 大阪府高槻市奈佐原2丁目3-22  
TEL 0726(90)3225 FAX 0726(90)3226

医療法人祐生会

みどりヶ丘老人保健施設

★広い機能訓練室、天然温泉が湧き出る施設

ベッド数:入所100床・通所50名

理事長 甲斐敏晴 (31期)

☎0726-92-3111(代) FAX.0726-92-3199  
〒569-1041 高槻市奈佐原4丁目7番1号

# 想い出に残る名物先生(2)

昨年この特集で浅見(紳)・下田(ピンタ)・山本(トীগン)・江良(江良パン)・田中(鬼瓦)・土居(ダルマ)先生について語ってもらった。大変好評であり、続編を望む声が多かった。そこで、本年は、若い会員の方々に書いてもらい、先生からも、西高時代の想い出を語っていただいた。

## 「原田祥史先生」

正原(和田)久美子 (51期)



誰がつけたか「ポンポコ原田」と呼ばれていた原田先生は、西高の先生の中でもお若く丸顔で眼鏡をかけ、いつもニコニコされていました。先生には現代国語を三年間教わりましたが、新聞の社説と朝日の天声人語にあたる欄と文化欄は必ず読むように言われたのを覚えています。

また真偽の程はわかりませんが、先生には下関シヨウ劇場のかぶりつきで見たいという有名な噂があります。一体どんな顔をして踊り子さんを見ていたのか想像するだけで楽しくなります。

三年生の担任として封建的なお考えの先生は、女子大の文学部ばかり受験した私には何もおっしゃいませんでしたが、青雲の志を持って西高に来た女子の中には反発を感じる人もいたようです。

私は在学中よりも卒業後、随分先生にお世話になりました。教育実習では指導教官でしたし、初めての見合いに立ち会って、結婚式にも出席してくださいました。なかでも忘れられないのは見合いの釣書へのご指導です。小柄な私に、身長なんて二センチ鯖を読んででもわからないから書き直すようにおっしゃるので

す。それで、身長をプラス二センチにして、差し引きゼロでちょうどいいかなと体重はマイナス二キロにしました。この釣書で四年先輩の主人を釣り上げました。ミッシヨンスクールで教職に就いた私を早く結婚させたがっていた母にとつて、原田先生は本当に強い味方でした。おかげ様で、三人の子供に恵まれ、のんびり専業主婦をしています。

若き日の師の言葉の蘇る我が娘も既に二十歳間近し  
二十年隔て変はらぬ師の声の受話器を置いてなほ耳に響る

## 原田祥史先生



(46年4月～57年3月在任)

面と向かってポンポコなど呼んだ者はいないが、西高ではずいぶんの間「ポンポコ原田」だの「ポンポコ祥史」と呼ばれていたらしい。風貌がタヌキなのかよく騙すのか、その由来も深意も質すことのないまま、学級日誌に登場するポンポコにホロ苦さと愛着を覚えていたように思う。

しかし、そのポンポコも、今や抜け毛に見舞われた古狸に変わり果てた。週末に襲来する孫たちが、「じいたん」とか叫びながら、その腹の上でポンポコ踊っ

ている。さながら狸々寺である。

しばし想い出に浸ってみよう。あの当時の下関西は、先生も生徒も、破格に伸び伸びと学校生活を楽しんでた。西高での鮮烈な印象は、やはり体育大会の巨大なアーチであり、夕陽まで騒いだフアアイーストームであろう。あの狂気か熱気か、境幽妙なる動騒こそが西高生のエネルギー源であったように思う。

自分の沿革を少し語ろう。その後宇部高校で十三年勤めた。その間、西高での教え子が、六人ばかり教員として赴任して来て、二人の息子が担任していただいた。次に、県立盲学校に転勤し、再び下関に舞い戻った。シヨウ劇場があつたままあつたのには感激し、しばし立ち止まって看板に敬礼した。躊躇を覚えて中には入らなかつたことを少し悔やんでいる。

二年後、安下庄高校に移り、そこで二年間単身赴任を経験し、昨年から防府の自宅に戻って、新南陽高校に通っている。思えばあの頃の生徒も、はやオジンにオバン。しかし、眼前に浮かぶのは高校生の彼ら。その面々が夕暮れのグラウンドで囲んだフアイヤーストームの炎の中にちらちらする。

「なつかしきポンポコ時代」に限りない感謝を捧げるばかりである。  
(県立新南陽高教頭)

## 「中山 定先生」

村上俊昭 (64期)



私にとつての西高とは、大多数の人が過ごしてきた学生生活と異なる場であつた。勉強と言うよりは、スポーツの場であつた。

あつた(授業中はほとんど寝ていたと思う)。中学時代に、陸上競技の全国大会で入賞したのに、高校では山口県から「強化選手」に指定されたからだ。なぜ強化選手なのか?運悪く、高校三年の時に山口県でインターハイ(以下IH)が開催される事になつてた。

西高に入学する前にも、先輩方が二三年に一人の割合でIHに出場し、当時の西高陸上部は、陸上に関するベテランの指導者が居たわけでもないが、部活の中では特に活発であつた。

IHの開催県となつた山口県では、一人でも多くの入賞者を出す事を目標に(結局私は予選落ち)、あれこれと検討したのだろうか、中学時代に県合宿等で指導いただいた「中山先生」が西高の体育の先生として転動してきた。

西高陸上部は、今まで自由闊達な練習を基本としていただけに、先輩方の反発も多く、「中山」体制が軌道に乗るまでにはかなりの時間を費やした。

ここで、中山先生との思い出を記す。

一、体育の授業の始めに、千五百米走を実施し、生徒から印象を悪くした。

一、ウエイトトレーニングを重視し、私設ジムへ通わせてくれた。後年OB会を発起し、機器購入の為に寄付を募った。

一、肉離れの時にも親身となつて指導をいただき、また、一緒に練習もした。

一、県大会の時には、湯田温泉街に消えて行く?

以上、中山先生は、私にとつて先生と言うよりは先輩であつた。生徒を信頼し、見守る姿勢に生徒も応え、がんばられたと思う。現在は、他校でのますますの御活躍期待しております。  
(東洋紡績)

## 中山 定先生

私が西高に在職したのは、昭和六十年四月から平成七年三月末の十年間で、部活(陸上競技)を通じて、特に印象に残

っている生徒を紹介したいと思つた。まず、最初に着任と同時に出会つたのが、村上俊昭君で高校二年生でした。彼は、中学校時代から有名な選手で、全国中学校陸上競技選手権大会の四百メートル競走で、第四位に入賞したほどの実力者でした。

私が着任した時彼は、「肉ばなれ」という故障で大変悩んでいる時で、全然走れる状態ではありませんでした。この「肉ばなれ」は、高校一年の夏休みの大会でレースの途中で突然起きたアクシデントで、対応の仕方が悪く、治つたかと思えば再発という悪循環のくり返しで精神的にもどろどろでした。まず、最初に彼と相談して徹底的に治療に専念して治そうということから始めました。約四ヶ月間を費やして以前のように走れる状態になりました。この間の彼の努力には、本当に頭の下がる思いでした。

復帰第一戦は、秋季県体で四百メートルに出場し、第二位で記録も十分満足できるもので二人して大喜びしたものです。これで完全復活だと確信しました。翌年の山口インターハイにも参加し、とてもいい思い出ができたことと思つた。彼と歩んだ二年間は、私には今後の指導の上でも大変な財産になりました。この十年間、本当にいい生徒たちに出会えて、たくさん感動をいただき楽しかった。また、マネージャーの女の子たちには陰の力となり、助けていただき感謝・感謝・・・。八月のOB会でお会いできることを楽しみにしています。  
(下関工業高教諭)



(60年4月～平7年3月在任)

## 作良昭夫法律事務所

弁護士 作良 昭夫 (47期)

〒753-0044

山口市鰐石町6番35号 松田ビル3階

TEL 083 (924) 8405

FAX 083 (924) 8441

## ◇ 快適空間を創造する ◇



# 株式会社 橋本工務店

〒569-0073 高槻市上本町10-18  
TEL 0726(74)0633(代表)  
FAX 0726(74)0637

# 「福田徳郎先生」

唐崎敏彦 (48期)



わたしが下関西高にお世話になったのは、昭和四三年から四六年にかけてである。この原稿依頼を受けた時、即座に答えたのが福田徳郎先生であった。

福田先生は数学を担当されていたが、わたし自身、直接授業を受けていたわけではない。当時所属していたバトミントン部の顧問をされていたご縁で知り、その後おつきあいさせていただいている。

当時を思い浮かべると、入学時は講堂の天下第一関・柔剣道場・木造平屋の食堂・部室がうかぶ。しだいに理科実験棟・道路むかひの新体育館・プール・プロックづくりの部室と変わってくる。学校環境がめまぐるしく変化していった時代のまっただなかにいたように思われる。われわれ四八期の新メンバーが入部した当時のバトミントン部もまたクラブから部に移る過渡期であった。

その時にわれわれの前に颯爽とあらわれたのが、福田先生である。おそらく二五才にはなつてなかつただろう。トレーニングウェアに身を包み、顧問というより、ともにプレイを楽しむ青年といった感じで、方言まるだしのバイタリテイに溢れた見事な風情であった。素振りから始まり、クリア・ドライブ・ヘアピン・ドロップ・スマッシュといった一連のショットの練習をわれわれとともに過ごした。夏休みの蒸し風呂のような体育館のなかにも、夕刻遅く暗くてシャトルの見えなくなった冬の体育館にも福田先生の姿があったことは鮮烈に記憶に

残っている。先生は部員の勉学のほうにも気を使ってくれ、「(積分)置換後始末」など面白いオリジナルの数学格言を持ち出してはいろいろ教えていただいた。このように、私の高校時代の心象風景には福田先生はかけがいのない存在なのである。(ミノルタ)

## 福田徳郎先生



(39年4月～45年3月在任)

私の教員生活は、下関西高が出発点です。それだけに、西高への思いは熱いものがあります。しかし、西高を去つてから三〇年以上経過した今、さすがにその記憶も次第に薄れていく中で、忘れられないものの一つが生徒と共に汗を流し練習に励んだ部活動です。

昭和四二年、二・三年生の有志が私にバトミントン部の顧問になるよう要請してきました。私はバトミントンについては素人でしたが、生徒の熱意に打たれ、引き受けたのが、西高バトミントン部の始まりです。少人数で発足した部も、昭和四三年度は、一年生から三年生まで部員が揃い、しかも一年生は女子も数名入り、初めて部としての体裁が整いました。新しい体育館が完成したのもこの年です。

この年の一年生男子五人の中の一人が唐崎敏彦さんでした。バトミントンは、運動量が多く高度な技術を要する想像以上に激しい競技ですから、部活動と勉学の両立は厳しかったことでしょう。しかし、彼の学年は、三年まで誰一人として

退部することなく部活動を続けました。しかも成績もトップクラスの者が多く、個性的で勉学に部活動に互いに良きライバルとして励まし合い、成長したと思います。唐崎さんのねばり強く頭脳的な試合運びは、今も印象に残っています。西高時代の部活動で、良き仲間と出会い苦楽を共にしたことは、その後の生活に大きくプラスになり、今日の活躍の礎となつたものと確信しています。

来年三月に私は教員としての最終ゴールを迎えます。最後の年に「旭陵関西」に寄稿させていただけるのも何かの縁を感じます。

終わりにになりましたが、旭陵同窓会関西支部の御発展と会員の皆様の益々の御健勝を祈念して筆を置きます。

(県立山口高校長)

# 「榎本光一先生」

山田祐也 (52期)



時は確実に流れているのだ。そんなあたりまえのことに気づいた昨年の同窓会。

その中でただ一人若返っていたのが榎本先生であった。ダンスをされる先生は七がけで年をとるので御年四九歳、我々の歳が追いつくのは時間の問題である。昨年卒業後二五年目にして初めての同窓会が下関で開かれた。我々理数科は三年間クラス替えがないこともあって、当時から非常に結束が固かったが、その中心にあったのは担任の榎本先生であった。

昨年五月高校時代の同級生数人と会い、酔った勢いで深夜に迷惑電話をかけた。瞬間にメールが全国を駆け巡り、瞬時にメールが全国を駆け巡り、理数科のホームページまでできてしまった。榎本先生の決して綺麗とは言えない肉筆がホームページに出てきた時には「ときたまものだ。榎本先生の古希の祝い」という錦の御旗がなければ、七割を超える驚異的な出席率は得られなかつたろう。人を引きつける不思議な魅力は今も健在だったのである。

高校時代の榎本先生の記憶といえば、今にも壊れそうなオンボロ車に刑事コロンボのようなコート、いつも大声で笑っておられる顔などで、失礼ながら授業のことはほとんど思い出せない。英語を教えていただいたが、ゴロ合わせのしゃれで進行し、今日の気分ではこれは×、などなど今考えてもとても進学校の英語教師の像とは思えない。ところが、榎本先生の英語でアメリカで不自由なく仕事をしていた同級生がいることも今回わかり、そうしてみると私が英語を不得意なのは単なる努力不足だったようである。

伊藤良樹君(神戸在住)の努力で第三期理数科のホームページはますます拡充し、メールの交換も活発になった。また榎本先生にお会いできる日もそう遠くないと思つている。いつまでもお元気で。(住友病院)

## 榎本光一先生



(44年4月～59年3月在任)

昭和四〇年代から五〇年代にかけての西高は旧校舎時代の伝統をそのまま維持していた佳き西高であったと思う。知的探究心に満ちた青春を思う存分有意義に過ごした秀れた健児達の殿堂であった。私達教師団も最善を傾けて彼等の勉学を援助したものである。課外、部活、体育大会、文化祭、修学旅行と想えば果しない程の絵巻物が繰り広げられる。

「旧制高校の如くあれ」という生徒への指導方針が進学、生徒指導両面に渡って徹底していた。自由、自立心、知的情熱、自尊心等英国紳士の教育に似た人格形成に私も全力を盡した。

私は主に補習科や理数科を担当し英語科の一員でもあった。又、進学や生徒指導に従事していたが、各々の職務に情熱を抱いて専念した。天下第一関の地に集う旭陵健児の育成に夢と現実生活のすべてを注いでいた。特に九年間に渡り私が西高を去ると共に消滅した補習科と特情熱をこめて担任した一九七五年三月卒の理数科三十四名の生徒諸君への愛着は特別なものであった。

去年十月に私の古希を祝って殆んど生徒が下関に会し、盛大に祝ってくれた日の感激は生涯の喜びになった。西高補習科は文理両クラスに別れ各々担任が居り私は部(科)長として総合的に彼等の大学進学勉強の援助に力を盡した。特に授業の指導の他に精神面の育成に重点を置き、競技大会等を行い、彼等との心の交流に励んだこともなつかしい思い出である。

新校舎も落成し女子生徒の増加につれ西高生の気風も変化した。四八年度頃の国立大学合格者数が最高の%を収めた輝かしい大学進学に精励する伝統も誇り高く受継いで欲しいと希むのである。毎年旭ヶ丘に集う後輩諸子の西高生としての自尊心と努力心を發揮して青春時代を懸命に生きて欲しい。

社会福祉法人みどりヶ丘会

# グリーンケアハウス

湯量の豊富な天然温泉のある施設

★42個室、4夫婦部屋、50人収容

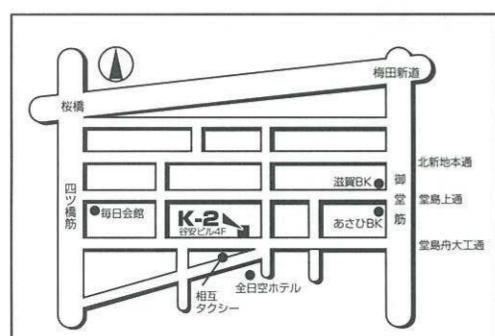
理事長 甲斐敏晴 (31期)

☎0726-90-3561(代) FAX.0726-90-3562

〒569-1041 高槻市奈佐原4丁目7番3号



川崎 彰子  
Akiko Kawasaki



〒530-0003 大阪市北区堂島1丁目3-4 谷安ビル4F  
Phone 06-6341-8022

「この世にワインのなかりせば」

中嶋(中西)千登世(55期)



夫は、私の六年先輩にあたる西高生。男尊女卑の風潮の色濃く残る山口県にあつて、気力、体力、知能指数の何ひとつ夫に及ばない私の力関係は夫唱婦隨。少なくともこの一八年間はそうだった。ワインも、先鞭をつけたのは夫だった。私がワインスクールに通いはじめ頃、普段飲んでるキャンティさえ、ブライントで飲むとわからないのだ。たかが、ブドウ品種。されど、ブドウ品種。六グラスのうち、半分以上はずすと、さすがに、センスのなさに落ち込む。「君は、お金をかけても僕と同じ」「美味しければいいんだよ」と嬉しそうにいたぶるのが、夫だった。ワインは、子育てが一段落した私達にとつて、楽しい遊びのひとつとなった。ワインの世界は、想像以上に、麗しく、崇高なお花畑であると同時に、古からの人間本来の生きる欲びを思い出させてくれる自然な世界だった。太陽と大地の恵み。人間の知恵と汗。生きとし生けるものを愛したいという気持ち、泉のようにあふれてきて、毎日が楽しく、感謝の日々だった。ワインスクールに通いはじめて半年。気がつけば、酒量だけはフランス人並み。これでは、御託の多いただの酒飲みだ。三〇代最後の記念にと、ソムリエ協会のワインエキスパートの試験を受けた。グラスをペンに持ち替えて、そこは、受験のノウハウを知っている西高生。厚さ二・五センチのソムリエ読本を

詰め込んで、合格してしまった。最年長、最低点だったかもしれない。それでも勝てば官軍。ブドウのバツジは戦利品である。抜け駆けをされた感のある夫は、苦笑しい顔をしていたが、ある日、合格者リストが届いた。ワイン好きで有名な女優の川島なおみさんと同じページに、私の名前が載っていた。「おお、ええやん。」初めてのお褒めのお言葉である。それからは、家にお客さんが来るたびに、その話題で盛り上がる。私は専属のソムリエールとして、気分よく料理に励む。再び、私は動物園のパンダよろしく、夫婦に平和がもどってきた。やれやれ。次なる至上命令は、『三千元までで、極上ワインを探せ』質実剛健、中味で勝負の山口県人だ。安いワインは美味しく飲むコツがある。まず、ワイングラスはびかびかに磨く。薄切りのフランスパンとチーズを少し。カマンベールチーズに、七味をかけて、オープントースターで焼けば、即席チーフフォンデュになる。我が家では、ホワイトアスパラの缶詰と生ハムは定番だ。ワインは、それぞれの適温に冷やす。白は低めで、赤は強さ次第でやや高め。好きなワインに出会ったら、ラベルを保存して徹底的に追及する。なぜ、どこがどう好きなのか?そこは、秘密の花園の入口であり、道しるべでもある。私にとって、極上ワインとは?華やかな香りと、まろやかな口あたり。きれいな酸味と、しなやかなボディ。余韻は、深く豊かで、時間と共に多くを語りかけてくる。一期一会の理想の恋人を探して、ドキドキの毎日である。

「ふるさと下関へ」

山田 等(33期)



この七月より満六十三歳の社員定年を迎える機会に郷里下関で第二の人生を送ることとなりました。始業の時間を気にせずに業績評価の緊張からも開放されますので、四十年間に亘って染み付いたサラリーマンの習慣から自分のリズムで毎日を有意義に過ごす方法を早く見つけなければならぬと、あれこれと思索中です。 保険会社社員としての勤務の間、大阪を始点として各地を転勤し、個人都合での分を含めると数多くの転居を重ねて来ましたが、その土地での居住期間は二年から四年の間の短い期間が大半であり、その地に溶け込む間もなく、またその今にして思えばその気持ちも希薄なままに生活を送ってきた思いがいたします。ある意味では観光客の姿に似た生活ではなかったかと反省しております。 通算では一番長く、住みなれた大阪を離れて終着として選択した土地でのこれからの毎日は、地元の方々と交流も増え、生活のテンポもゆつたりとした心地よく、住みやすい所と思っております。 高校までの十八年は地元山口、下関のことについてはあまり深く関心を持つことなく、学業を中心の生活でしたので、地域の知識、情報については無いに等しく、都会に住む他人に郷里の事柄を十分に説明も出来ない自分を恥ずかしく思っていました。 これからはたっぷり時間がありますので、歴史に富み、深みのある郷里の姿にいろいろな角度から関心を強くして接していきたいと思っております。

時折の帰省の際に目に触れた町の景観も経済環境、交通網の変化によって大幅に変貌し大きく伸展した面もあると同じく失われた風物を見ると淋しい思いもしております。 退職の挨拶に郷里への転住を説明するとほとんどの方が「美味しいふぐが沢山食べられていいですね」と必ずふぐを話題にされました。すぐ下関の側で漁獲されているのかと誤解されているのでは、と思うほどに下関とふぐを結びつけて連想されておられます。確かに都会の鮮魚に比較すると活きのよい近海魚が豊富であることは間違いなくこれからの魚料理は私の楽しみの一つであります。 へボの域を出ない囲碁を通して人との交流を広めながら、地元の歴史を一つ所でも多く探訪して行きたいと思えます。 諸先輩の貴重なご意見、アドバイスを沢山にお願いしたいと思います。

「五條と下関」

原田 章(54期)



奈良県の中央部、大和盆地の西南にある五條に五年前から住んでいる。花好きの嫁が、庭のある一戸建に住みたいという希望をかなえ、亭主はドアツウドア二時間かけて会社に通っている。五條に引越してきた頃、五條文化博物館ができたので五條の歴史を勉強してみようと赴き下関との深い関係があることに驚愕し、なにかしら赤い糸に結ばれてこの地に来たのではと恐ろしい気になった。 五條の歴史を紐解いてみると、市の中央を吉野川が流れており、恵まれた環境にあり、有史以前から人が住んで居たこ

とを古墳や遺跡などで知ることができる。平安時代から鎌倉時代にかけては藤原南家の菩提寺として有名な榮山寺が榮華をほしいままにしており、八角堂や小野道風の書と伝えられる銘文が刻まれている。 梵鐘が国宝に認められている。 また、五條は西熊野街道、伊勢街道、紀州街道が、熊野、奥吉野、紀州とを結ぶ交通の要地として栄え、市の中央を流れる吉野川(河口では紀ノ川)船運の船着場でもあったので、宿場町、市場町として賑わっていた。 江戸時代になると松倉氏一萬石の城下町として活気を呈したが松倉氏が島原へ移封されると幕府の直轄として代官所が置かれた。 幕末の風雲急を告げ、攘夷討幕の風が吹き荒ぶ中、一八六三年尊王攘夷の断行を神武山稜に祈願するための大和行幸が朝議で決まり、討幕急進派の中山忠光卿(侍従)を主将とする天誅組志士三〇名は皇軍の先鋒となる為早峠を越え、当時幕府の直轄地であった五條に入り、一斉に挙兵し、五條代官所を襲い代官を殺害し、五條新政府を号し、討幕の旗をあげた。 しかし、朝議で一変して攘夷派が敗れ、天誅組の義拳の大義名文を失った。吉野各地で転戦するものの幕府の追討軍は一万人を超え、内部対立等もあり、東吉野村鷲家口において決死的斬り込みを敢行して終わりを遂げた。 一方、主将である中山忠光卿は大阪の長州藩屋敷を経由して山陰路を落ち延びて行き、長州藩に入り今の下関・綾羅木までおちていき、そこで追手に捕まり命を落とす。その中山忠光卿を奉っているが中山神社である。 中山忠光卿に導かれて五條に来た感じが今年度の正月も綾羅木の中山神社へ複雑な気持ちで初詣に行った。皆様も今お住まいの土地と下関との関係を調べると意外なことに気がつくかもしれませんね (住友電気工業)

阪急東宝グループの 葬祭サービス **イテル** 0120-01-3242 ☎0798-66-6622 ●イテル倶楽部会員募集中 入会金 3,000円だけで 葬儀基本料金 20%割引 「旭陵関西を見て」とお申込みいただいた方は、入会金を無料にいたします ●事前見積りもOK 株式会社阪急メディアックス 西高43期 岩間之三が社長としてガンバッテます。

葬祭会館 **イテル西宮** (阪急 西宮北口) 葬祭会館 **雄峯殿** (阪急 池田) 他14会館が使えます。

**WE TOUCH HUMAN LIFE** 私達「シズカ・グループ」は、人の心と生命を大切に、豊かな食文化の創造を通じて、人間らしい生き生きとした生活づくりに貢献し続けます。 **シズカ・グループ** ●総合ミート産業 株式会社 **静** 公司 ●ペプチド&乳酸菌飲料 **カタノ物産株式会社** ●不動産&保険事業 **サン開発株式会社** ●スーパーマーケット 株式会社 **サンシズカ** ●フードサービス 株式会社 **サンフレッシュ** ●鮮魚&塩干 株式会社 **シズカ水産** ●レストランチェーン 株式会社 **シズカ** ●政府登録国際観光レストラン 株式会社 **海峡グルメしずか** ●酒のディスカウントストア 株式会社 **サンパッカス** ■協賛組合 シズカ・グループ食品事業センター

「路」

荒川玄二郎(44期)



この五月二日、三つ上の大郎兄が食道がんで五十四歳の生涯を閉じた。運動好きで人一倍元気だっただけに四十九日がすんだ今も信じられない思いです。昭和二十三年父二六郎が開業した東駅のちいさなちいさな荒川医院も五十余年の歴史を一応閉じました。父も兄もPTAや校医として旭陵の方々に深くご縁をいただきました。無常迅速を実感の今ですが紙面を借りて生前の御交誼に感謝しつつ一寸御報告いたします。

小生の京都市も三十年になります。海が見えて温泉が湧く処に仕事場をといふ永年の夢は当分無理のようです。開門海峡・響灘と海に親しんで育っただけに無性に海を見たくなる時があります。西高時代に綾羅木川中の自宅から吉見の先の林道口まで自転車を飛ばし遠くに蓋井島を望みつつ億兆の波頭に反射する太陽の輝きに荒魂を鎮めた体験は今も鮮やかです。人造に囲まれて日々を流してしますが時に天造に身を委せたくります。

歯学部中退の決心をした時、棟方志功先生の絵に対する過分なホメコトバに大きな影響を受けたことはなつかしい事実です。初対面の際『君、まだ若いじゃないか』と呼ばれ『あなたは人間をお師匠様にしてはいけない。風とか雨とか海とか山とか大自然をお師匠様にしては』と預言者のように語られた。

河井寛次郎は妻の祖父であるがその旧

居を一般公開しその業績を文章で明らかにする仕事に十二年間尽力したが肉親の情からではなく寛次郎に出会った者の歴史的使命、星めぐりと今、思う。

年に一度 作品を世に問う『七夕展』も九回目となった。祇園研碎小路ギヤラリー和田という塩梅のよい処です。怠け者で世外志向・隠者志向も強い小生にしては上出来です。脱線愚行の数々の過去を思うと赤面の今です。

『へたも絵のうち』が今春平凡社から文庫版として刊行されました。熊谷守一先生は小生にとって神様のような方です。口述自伝の書ですがこの世への静かな警世の本でもあります。拝眉のたびに感銘深い守一先生でした。「混沌」という小生の字を認めて下さったことが大きな心の支えになっております。

(海暖房 日本ペンクラブ会員)

「マグネットやまぐち」

浜崎(水津)裕治 (41期)



昨年の六月、大阪に赴任してからはや一年が経過しました。昭和六二年四月から平成五年三月までの六年間、大阪に勤務しており、二度目の勤務となります。

再び大阪に戻って感じたことは、かつての活力が見られないことです。非常に寂しいことではありますが、時々帰郷する「わが故郷下関」でも同じような現象が起っています。

そのため、少しでも地元のお役に立てればと思ひ、今年二月に異業種交流組織

である「マグネットやまぐち」を設立しました。

この会は下関に限定したものではありませんが、「山口県に本社を置き、関西に支店及び営業所がある企業」の営業支援と情報交換を目的とするものであり、その事務局長をやっています。

設立総会には、二井山口県知事を来賓としてお招きし、盛大に開催することができました。現在会員は六九社で、関西進出企業の八割以上が参加しています。

最近読んだ本で、童門冬二氏の「大改革(長州藩起つ)」の「あとがきにかえて」の一節に「地方自治は役人だけの問題ではない。住民・商工業者・マスコミ・ミニコミ・金融機関・JA・JC・など、そこに生きる人すべての問題だ。地域が活性化されれば、必ず情報が生まれる。地方発信の情報が活発化し、これが東京を包囲すれば、問題の首都機能一極集中など、いやでも崩壊する。長州藩はそれを見事に成し遂げた」と述べています。

また「元就は広島島の山村から興り、やがて現在の行政区でいえば、広島・山口・北九州。島根・鳥取・岡山・兵庫などの諸県にわたる広域管理体制を作った。やがて日本でも論議される「道州(都道府県連合体)」をあてはめれば、元就は戦国時代に既に、『中国州あるいは中国道』を実現させた」とも述べている。

まさにその言葉通り、わが故郷下関つまり山口県の発展を願って、この「マグネットやまぐち」を情報発信の実践場として成功に導き、将来は「毛利藩」を視野に入れた広域的な情報ネットワークを関西で構築したいと考えています。

郷土の詩人種田山頭火の句、「しづるるや道はひとすじ」の如く、険しい道程を全力投球で取り組んでいます。それには良きアドバイザーが必要です。「天下第一関」の志をお持ちの方は、是非山口銀行大阪支店へご連絡をお願い致します。(山口銀行大阪支店↓六月二十九日 北九州支店)

「時代と子供達」

土井 亭 (31期)



私の塾で最近まで使っていた国語の教材に、戦前の小学生が世界地図を眺めながら、ベルリンはベルリンとならうかなどと勝手な想像をして楽しむ場面が出てくる。娯楽に乏しい当時はそんなことも遊び感覚でやりながら知識を増やしていたと思う。漢字も私たちの子どもの頃は、少年倶楽部や講談本で自然におぼえたものである。

ところで今の子どもたちは、いつでも知識が獲得できるという環境がかえってあだとなつて、広い世界に対する好奇心が鈍化している。そのうえ、次々と豊富に提供されるゲームやマンガ、テレビ番組に追われて、学科に関する知識はとくに興味の対象外となつてきているというのが現状である。

このような現象は今にはじまったことではないが、それにしても近ごろはひどすぎる。教育の現場に立つ私は、毎年新たなショックに打ちのめされるという体たらくである。先日、英数が上位にある中学一年生を指名し、地図で中国を示しながら、この国は何という大陸にあるかと聞いたところ、顔を赤らめ、しばらく苦悶したあげく、蚊の鳴くような声で「フリカ大陸と答え、国名は答えられなかった。ついに事ここに至ったかと天を仰いだのはいうまでもない。漢字についても床がしずみこむようなショックを毎度味わっている。

しかし、このような現象をひたすらな

げき、いまだきの若いもんはなつていないと極めつけるとすれば、漢文の衰退をなげく明治末期の漢学塾の先生のごとき存在に私が成り果てたということであろう。漢学でこり固まつた当時の年よりたちは小説の類いを読むような少年に不良の烙印を押し、もっぱら孔孟の道を勧めたにちがいない。マンガやゲームをいじがいに有害と決めつけがちな当方こそ自戒すべきであろう。既成概念では思い及ばないところで、現代の若者たちが自己形成を果たしつつあると信じたい。マスコミが騒ぎだてるような風潮は確かに存在するであろうが、私の身辺に関するかぎり、「キレやすい」とか暴力的で自己本位の青少年は見当たらないのである。そもそも、時代を切り拓く若者たちを、世に出る以前に、周囲が声援を送つたという例がかつてあつたであろうか。刑務所がえりの若い松陰のもとに集まる下級武士たちを、年寄りたちはうさんくさいものにしただけならなかつたであろう。数年前、私はマニラで日本人留学生たちのスラムでの活動に同行する機会を得た。彼らはタガログ語を駆使しながら愛情をこめてスラムの子どもたちと接していた。こんな私たちの思い及ばないような活動は、マスメディアからは見えて来ない。

中国が答えられなかつた生徒も、何年後には、サナギがチョウになるような変身を遂げるであろう。パソコンを自在に操ってデータを集めたり、居ながらにして世界中の人々と交流したり、あるいは物おしせず世界のみならずみまで出かけていくであろう。まさに後生おそろべしである。

そんな子どもたちの未来を信じてあたたかく見守ってあげたいと思う。ただし、今後とも私はがんこおやじぶりを発揮して子どもたちを悩ますであろう。甘やかすことが何よりもかれらにとって有害であると信じているからである。

(下関綾羅木で塾経営)

すぐれたシステム構築力と  
充実したネットワークで  
あらゆるソリューションを実現します。

Your growth is our business!!

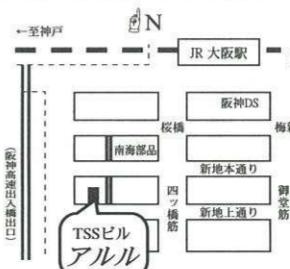
西日本オフィスメーション株式会社

代表取締役 藤井康郎 (42期)

- 下 関 〒751-0806 下関市一の宮町3-10-3 OAビル1F  
TEL (0832) 56-8461(代) / FAX (0832) 56-8261
- 北九州 TEL (093) 531-8138(代) / FAX (093) 531-8178
- 福岡 TEL (092) 473-0322(代) / FAX (092) 411-2804
- 熊本 TEL (096) 359-0031(代) / FAX (096) 359-0080
- 広 島 TEL (082) 242-6203(代) / FAX (082) 242-5945



★お気軽にお立ち寄り下さいませ  
お待ち申し上げております。  
(創業記念日・同窓会・新年会・  
忘年会・クリスマス・各種パ  
ティ等に御利用下さい、土・日  
も貸切り承ります)



COFFEE & BAR  
ARLES アルル

〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-5-3堂島TSSビル1F  
TEL(06)6436-3696  
深川 玲子

